

令和 8 年度 第 1 回南部町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 令和 8 年 7 月 28 日 (火) 午後 1 時 30 分 開会
午後 4 時 10 分 閉会
- 2 開催場所 南部町役場本庁舎 2 階 大会議室
- 3 出席者
 - ・町長 佐野 和広 ・教育長 市川 隆 ・秘書政策監 渡辺 雄治
 - ・教育委員 望月 正宏職務代理者 ・教育委員 山本 純司 ・教育委員 望月 聡美
 - ・教育委員 田村 勝彦
- 4 事務局等の出席者
 - ・総務課長 遠藤 一明
 - ・教育委員会事務局 ・生涯学習課長 杉山 一陽 ・学校教育課長 志村 勝也
 - ・学校教育課課長補佐 稲葉 啓介

5 協議事項

- (1) 令和 8 年度教育委員会方針について
- (2) 令和 8 年度各学校・生涯学習課の取組方針について
- (3) 令和 8 年度南部町教育支援センターの事業について
- (4) 南部小学校の校歌及び校旗校章について
- (5) その他

6 議事経過の概要

次のとおり

1 開 会 (望月 正宏職務代理者)

本日は、誠にご苦勞様です。先週は、5 日連続で酷暑日となり記録を更新しました、また 23 日には、猛暑日があり、異常な天候になっています。その様な中、本日は、第 1 回南部町総合教育会議に出席いただきありがとうございます。それではただ今から、令和 8 年度第 1 回総合教育会議を開催いたします。

2 町長あいさつ

皆様こんにちは、今のあいさつにありましたけど本当に暑い日が続いている中、今日は、町の職員が火祭りの会場作りを行っていきまして、本当に大変だと思います。そうは申しませんが、南部町の大きなイベントですから、なんとか成功しなくてはならないと思っております。いろんなところでお話をしましたが。今年は、山梨県がドローンを使い南部の火祭りを撮影し、「神明の花火」、「吉田の火祭り」、「南部の火祭り」、この三つの祭りを山梨県の三大祭りとして、山梨県がドローンの会社とタイアップをし、ロモーションかけて全国に PR

するということをします。現在この地域には、インバウンド効果がありませんが、これをきっかけに少しでも、外国の方に来町していただきたいという思いがあるようです。これからどんな展開になるのか分かりませんが、来年度からは、その効果が表れてくるのではと思います。

ここにきまして、面白いイベントがあります。それについては、後ほど杉山課長の方から説明いたしますが、アルカディアフェスタに合わせて大きなイベントをする計画もあります。その他にも6日には、東京において山梨中銀も関わるなかで、渋谷の宮益坂でイベントを行います。それは、地方に人を呼び込みたいというふうに考えていまして、南部町としてコラボでもできることが見つければ面白いかなと思います。

本日の第1回会議から、田村先生が初参加していただけます。田村先生には、いろいろなことについて指導をいただいておりますが、この会議は、活発な意見が出ますので、南部町の教育に活かせるようにしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

南部町は、挨拶日本一だと言っていますが、学校内ではそれは浸透していると思いますが、子どもたちは、一般の人に対してなかなか挨拶をすることが出来ていないと聞きました。地域の人たちとコミュニケーションをとるには、あいさつすることは非常に有効ですから、是非、推進していったほしいと思います。

3 教育長あいさつ

皆様こんにちは、本日はお忙しい中、また大変厳しい暑さの中、ご出席いただきありがとうございます。地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が平成27年4月に施行され、新たな教育委員会制度がスタートすると同時に始まったこの総合教育会議ですが、今年で12年目となります。この会議は町長と教育委員会が、教育行政の大綱や重点的に講ずる施策について協議調整を行う場であり。両者が教育政策、方向性を共有し、一致して執行にあたることが期待されています。そして、会議において調整がついた事項については、それぞれがその結果を尊重して、事務を執行することとなります。

さて、南部町におけるこれまでの協議事項を振り返ってみますと、教育大綱の策定に始まって、コミュニティスクールの設置、富河・万沢小学校の統合と富沢小学校の開校、教育ICTの導入及びICT教育の推進、南部中、身延中と身延高校による連携型中高一貫教育、学校施設の長寿命計画の策定、生涯学習の充実、文化財の保護と有効活用、教育振興基本計画の策定、新型コロナウイルス感染症対策とコロナ禍の対応、ふるさと教育、支援センター事務、教育施設の大規模改修事業、睦合・栄小学校の統合と南部小学校開校、教職員の働き方改革、などが本町教育行政の重要課題が議題として取り上げられてきました。これらの議題は、熟慮を経て取り組むべき方向性が定まり、町長と教育委員会の共通理解のもとで事務事業が進められたことで、より効果的かつ効率的な事業展開が図られたと感じております。これぞまさしく総合教育会議の目指すところでありまして、町の教育に対する深いご理解があったからこそその結果であり、心より感謝申し上げます。

教育は人づくりであり、まちづくりという視点では時間をかけた未来への投資だと思います。皆さまから忌憚のないご意見をいただく中で、施策が練り上げられ、この投資がより確実なものとなることを願ひまして、挨拶とさせていただきます。限られた時間ですが、充実した時間になりますようお願いいたします。

4 議 事

(1) 令和8年度の教育委員会方針について

【教育委員会方針については、市川教育長より説明がありました。各学校の概要については、志村学校教育課長より、今年の生涯学習と歴史資料室については、杉山生涯学習課長より、説明があり、歴史資料室について、山本委員より補足説明がありました。】

(市川教育長) 教育委員会方針のこれまで説明につきましては、令和7年度末の総合教育会議で確認をされていることなので、ここではスタートしてどうかという皆さんにご感想をいただけたらと思います。

意見無し

(2) 令和8年度各学校・生涯学習課の取組方針

(市川教育長) 南部小学校の学校運営協議会会長には、田村委員。富沢小学校の学校運営協議会会長には望月正宏職務代理者、南部中学校の学校運営協議会会長には、山本委員にお引き受けいただいております。図らずも3校のコミュニティスクールのトップがここにいらっしゃるということで、7月21日に第一学期の終業式を終えて、子供たちは夏季休業に入っているわけですが、コミュニティスクールのお立場でご意見や補足をお願いします。

(望月正宏職務代理者) 富沢小学校の学校運営協議会の会長を長く務めさせていただいていますが、毎年PTAの会長・副会長が変わるので新鮮な意見を聞くことが出来ています。また、学校訪問も運動会や授業見学など幾度も行く機会があり、訪問するたびに子どもたちの可愛い印象を受けます。

私は、時々横断歩道で登下校の見守りをしているのですが、そこにいるときは、子供がよくあいさつをしてくれますが、知らない人となると、なかなか難しいようです。それが少し課題かなと思っています。富小では挨拶運動について挨拶ビンゴをやっています。縦斜め横に九つの柵があり、つながるとご褒美もらえそうです。これは、長いこと続けていまして、富沢地区の各戸配って実施していますが、いまいち浸透していないという印象を受けています。そのあたりは、学校で少し検討して、効果があるものにしていきたいと思っています。その他に学校運営協議会では、学校の経営方針とかそれに対して了承するかどうかなどを話し合っています。

(田村委員) 南部小学校は、睦合小学校の渡辺校長と栄小学校の近藤校長が同級生であり非常によくコミュニケーションとっていただいたおかげで、両校の良さをうまく融合して学校教育目標作り、細部に渡って打ち合わせもされていて、一言で言うと非常にうまく移行されたなという感じがします。教育委員会で学校訪問した時に、睦合の児童はわかるのですが、栄の児童はわからないので様子見ていましたが、非常に仲良くというかごく自然に交わっているように見えました。校長に聞いたところ、特に問題もなく、非常にいい感じで南部小がスタートしているということを聞いております。それと挨拶についてですが、睦合小学校では、子供たちは挨拶できているという自己評価ではありますが、地域の親御さんたちはそうでもないという評価をしていて、少しギャップがあるかと思います。それはそれでよいと思いますし、少しずつ浸透していった学校ばかりでなく、地域の公民館活動などから、あいさつ運動を広めていかないと無理があるのではと思います。そのような活動を通じていけば、徐々に浸透していくと思います。南部小になって、校舎も非常に綺麗になって、いい環境でスタートしているという印象です。

(山本委員) 運営協議会は 3 期 6 年勤めています。長年の懸案だった不登校の生徒とか欠席気味の生徒が学校訪問の際にだいぶ減ってきていると説明を受けました。教室に入れないとか、別教室で勉強しているとか、それぞれ事情がある生徒もいますが、状況的には、改善傾向にあるというふうに思います。子供たちの授業の様子を見てみますと、安定して授業を受けている印象でした。あとは面白い授業をどう作っていくとか、中学生が興味のある話をできるのかというのが課題だと思います。今年の研究テーマがユニバーサルデザインということで、そういうところを踏まえながら自分の力を高めていくように頑張ってもらいたいと思います。地域との関係で言いますと内船歌舞伎の参加が昨年より復活しました。昨年、参加した生徒に聞くと、よかったという意見やまたやりたいという意見がありました。歌舞伎の方でも 12 月公演もありますので、学園祭に向けてと 12 月公演に向けて、やってみたいという申し出があったそうです。地域にあるものに参加してみて初めてわかるということが、子どもにとっていい体験になると思います。

挨拶については、子供は真面目ですから地域においても挨拶をしているのかもしれませんが、その反応がいまいちだと、次のステップも踏めなくなるということもあると想像できます。一方で、恥ずかしいとかの理由で、なかなか挨拶できないという子もいるかもしれません。挨拶については教育委員会の方針においても、挨拶日本一の取り組みだけでなく、そこに、社会全体のつながりとか、連携とか細かい踏み込んだ言葉を入れてありますので、それを踏まえながら中学生に考える場を作ってもらえればいいかなと思いました。中学生として地域の挨拶運動をどう捉えて、どう考えて、地域とどのように関わっていこうか考えてみてそれを提言できるような形にしていくのも面

白いと思いました。

(佐野和広町長) 皆さんご存知のように、今、学校の存続についていろいろあります。静岡県の富士地区が5校を3校に、それから富士宮地区の4校を2校に、早ければ2033年に富士宮で実施される予定です。富士市は、地元で賛否両論がありますけど、9校が5校になるということが現実となります。身延高校についてですが、山梨県の学校教育課においても、今のままでは困ると判断しています。国から出向してきている佐々木次長が主体になりまして、リモートで南部と身延の町長の話と隠岐島前高校の成功事例を聞きました。なかなか簡単にはいきませんが、身延高校の校長が、実績と非常にやる気がある人なので、山梨県の方は、あの先生なら何とかしてくれるんじゃないかということで送り出してきたそうです。今年は、46名の入学者です。少子化の中で大変ですが良い結果になればと思います。私は、子どもの数を少しでも増やしたいと、思っております。そういったことをやることによって、身延高校の存続にもつながっていくのではと思います。

(望月聡美委員)

私も夕方、中学生が帰ってくる時間に散歩をしていますが、私の顔を知っていることでもあります、中学生は、積極的に挨拶をしてくれます。中には、恥ずかしくて私のほうから声をかけて、「あ」みたいな感じの中学生もいますが、それはしょうがないのかと思います。

中学生の息子の夏休みの宿題の中に、タケノコマンの台詞で挨拶をしようという、挨拶をピーアールするという宿題があり、子どもからなんて書いたらいいんだろうと相談を受けました。今こういうことをやっていると子どもと会話することで親も気づき、親もそれで挨拶運動を意識するようになるのではと思います。そういった親子の会話で、私たち親世代もしっかりと挨拶する必要性を意識付けていくことになればよいと思います。

余談ですが、この間、千葉の実家に帰省した際に、ついついもの癖でうちの前を歩いていた小学生に、お帰りなさいと言ったところ、すごいびっくりした顔されて、すごい顔して逃げていきました。その時にここは南部と違うんだって気づきました。やはり挨拶日本一の町というこのスローガンは、他の町にすごくよいPRになると思います。ですから、ぜひとも続けて、親世代も、おじいちゃん、おばあちゃん世代もぜひ積極的に推進していったほしいと思いました。

(山本委員) 10年ほど前の運営協議会の中で、子供たちが挨拶をしないという話が出ていたが、地域の人も挨拶をしていないという話になり、結論大人から挨拶するのが大事ということになりました。子どもにばかり求めてはだめで、様々な代表の人たちが、地域

でそういった話をするとか、組織に出向いて、みんなで協力してやりましょうという話になりました。しかし、具体的にどうするかという段階に至らず広がりを見せませんでした。中学生が目に見える形をいろいろ意見を出して考え広く広める努力をして、それを見て大人はどう考えるのが大事だと思います。

近所に中学生が住んでいますが、「お帰り」と声をかけると、「ただいま」と返事が返ってきます。中には、なかなか声を出せない生徒もいて「おはよう」と挨拶しても、小声で挨拶がかえってきたり、目が目合うと目礼だけする子もいるのは事実です。いろいろな性格の子がいることを大人が理解をしてあげないといけないと思います。

(望月正宏職務代理者) 大人が子供にあいさつするのは非常に大事なことでだと思います。

どういうふうに啓発活動するかといいますか、いろんな場面を通じて、大人の方々に挨拶をしてください、挨拶しましょうという場合もありますし、子供が大人に挨拶した時に、挨拶された大人は、なにか感じとってほしいと思います。啓発活動をどうしていくかというのは、今後大きな課題だと思います。

(佐野和広町長) 挨拶に関する取組に関して区長会で啓発していきたいと思います。

(望月正宏職務代理者) 子供たちは、挨拶の一部かもしれませんが、横断歩道の前で止まると、子どもたちが渡り終わった後、振り向いて礼をしてくれます。彼らは僕のことを知らないが、そういう機会が結構あります。

(山本委員) 先日の町民会議の中で各学校から、最後に地域で挨拶と言いました。地域においても挨拶とか子供たちに声かけをしてくださいとお願いしていました。町民会議という括りは、各長が出席しているのでその方々にも行動してもらえる大事な機会だと思います

(渡辺秘書政策監) 南部小学校が開校して、スクールバスでの通学になったことから、安協で交通指導に立っても子どもたちの登校に立ち会わず、子どもたちと接触する機会が減ったと感じました。

(遠藤総務課長) 職員の中でも挨拶ができない人はいます。そういった職員には、こちらから声をかけて互いにコミュニケーションをとっています。子どもたちの中でも挨拶が苦手という子がいるのであれば大人から声をかけていけば良いと思います。

【歴史資料室の活動について】

(山本委員) 落穂拾遺は、近藤喜則資料室に訳したものを置いてあります。挿絵が入っているので子供にとっても面白いと思います。落穂拾遺を中心に、歴史資料室便りを1号から17号まで発行しています。現在は、御用日記になりました。当時のここに住んでいた人たちの生活が出ていますから、絵として見るのも良いと思います。例えば彗星が流れるとか、地震があったとか、火事があったとか、お正月の様子とかいろんな様子が掲載されています。学校でも学習材として使えると思います。

(望月正宏職務代理者) せっかくあれだけのものを作ってあるので後世に伝えるために、ふると教育と絡めて学校などで話をしても良いのでは。

(山本委員) 小学生でも読める素材として、漫画を作成しています。

【アルカディアの充実について】

(市川教育長) 生涯学習課長の説明の中で、アルカディアの充実というのは。裏返しますと南部町が賢く縮んでいくというところにも通じると思いましたがいかがですか。

(杉山生涯学習課長) 施設のスリム化・集約化につながり、さらに使い勝手を良くするという事で力を注ぐということです。

(佐野和広町長) 私の考えでは、アルカディアを運動や学習の聖地として盛り上げたい。

体育施設というといくつもあります。人材が少ないことから、少しずつ集約して時代に合ったものを取り入れる必要があると思います。

今度のフランス人が主催する自転車の大会も、ツールドナンブとしてもらったかどうかと思いました。少し話を聞いただけでも相当面白い企画だと思いました。前日に多目的広場にテントで泊まって、出発するとなると相当面白いのではと思います。それからもう一つ、南部氏の話がありましたけど、山梨県西桂町の倉見には、南部藩との絡みがあるらしいです。これについては是非調べていただければと思います。

従来の施策を踏襲するこれは誰でもできること。それでは発展しない。少しずつでも変えていくしかない。南部の道の駅は、ものすごい勢いで伸びています。あれは会長が、従来のことやったら発展はない、前年度より少しでも良くならなきゃいけない。そのためには何をやるかということで、アイテムを変えてみたり、やり方を変えてみたりして、そして順調に伸びていっています。それは、大変なことですが、やりとげながらも従業員は辞めずにいます。

生涯学習課の業務は多岐に渡りますが、少ない人数ですがいろいろとやっていくしかない。

(2) 令和 7 年度南部町教育支援センターの事業について

【志村教育課長より令和 8 年度の南部町教育支援センター事業について説明がありました。】

(市川教育長) ありがとうございます。平成 26 年度開設ということで、どんどん充実が図られてきました。それと同時に事業が増えてきたんですけど。他所に誇れる活動だと思いますので。外に向けてアピールしていただいいてよいと思います。

(佐野和広町長) 私は、平成 23 年に就任しました。3 年後である 26 年に渡辺先生や芦澤先生が、南部町の特徴を出しましょうということで、皆様のご協力により教育支援センターとして、スタートいたしました。山梨県においても先進的な取り組みであり、非常に誇れる制度となりました。

このような良い取り組みをしつつも、残念なことに子どもは増えていません。しかし、この取り組みの良さを知って富士宮から、引っ越してきた方もいます。この取組みが、現在も続いていることは、本当にすごいことだと思いますし、教職員の OB の方々には頭下がるといいます。

(市川教育長) ありがとうございます。委員の中には、教育支援センターの当事者でいらっしゃる方もいらっしゃるわけですが、中から見た若しくは、外から見たことなど、いろいろなご意見をいただけたらと思いますがいかがでしょうか。

(望月聡美委員) 中学校では、不登校の子たちが、少しずつ減ってきているそうです。学校の先生方がよく見てくださって、ステップルームですとか、保健室通学の対応とか、それでも学校にいけないという子たちは、チャレンジ教室があって、本当によく見てくださったおかげで、今があるのかなと思いました。私の地元の千葉市では、このような取り組みを聞いたことがないので、不登校の子は、行き場がなく家で引きこもってしまったりということが多いと思います。私は、教育委員になってこのような取り組みがあることを初めて知りましたので、このような取り組みがあることをもっとアピールしていいんじゃないかなと思います。

(山本委員) 実際、教育現場からすると、学校が大変で手が回らないとかいう状況は、子供への対応について、いい状況とはいえません。子供は、孤独感を感じたりしているのに、なかなか関われないとか、家庭的な原因を含めて非常に難しいケースが多いので、やはり学校だけで抱えきれない。そうすると、子どもが相談したり、ちょっと息抜きが

できる、そういうところがあると子供も行きやすくなるし、落ちついてくると、また、学校に戻りやすくなる。実際、私も支援センターで二年間、社会科を教えたことがあるが、子どもの表情が非常に明るくなってくるというか前向きになるのがわかりました。

実際に自分も経験したのでこういうところがあるということが、非常に大事だということと、学校は常に繋がっているということが、さらに大事で、いつでも戻れる、いつでも行ける、いつでも相談できる、子供にとってそういう場所であること、親にとっても必要な場所であると思います。支援センターにいる先生方にとって、係わるということはとても大変なことです、そこに救われるこの子供や親は、たくさんいると思います。ですから、南部町の教育の中で、外側の人にアピールするとすれば、支援センターの取り組みは、必ずいれる必要があると思いますし紹介してほしいところです。

(市川教育長) 南部町は、学校と支援センターの距離、それと学校と教育委員さんの距離、いろいろな距離が近いというように感じました。

(望月正宏職務代理者) 県外の人と話をしますと、チャレンジ教室や未来塾を無料でやっていたり、給食も無料、医療費も18歳まで無料という話をするとうかがわれます。そういう環境にあって、不登校の子たちが気軽にこれるような環境を作って行きたい。

(市川教育長) 若い人に南部町を選んで住んでもらい、子育てをしてもらう環境の一つとして、教育支援センター機能を充実、また、学校現場にとってありがたいと思う事業である教育支援センターを認めていただきありがとうございます。学校も疲弊していますし、人的な支援というのは本当にありがたいと思います。教育支援センターの充実ということで、いろんな角度で教育に対する支援をいただいています。

(田村委員) 周知認知は、時間がかかります。チャレンジ教室についてある子の親が、学校からではなく、こういう取組があることを知ったと言われたので、担当と一緒にパンフレットを作って、学校を回りました。担任の先生たちに、こういう取組があるので不登校の子がいる場合には、是非、親御さんに話をしてくださいと説明しました。

それ以降、4月の職員会議で取り上げてもらったとしても先生たちが、なかなか頭の中入ってこないことから、親御さんだとさらに、そうかと思います。地道に毎年、毎年ことあるごとに、話しをしていきたいと思います。学校訪問もそれまで、あまりやってなかったんですけど。そのことがあってから学校訪問して、少しずつ分かってもらってきています。

昨年、一度ですが支援センターの業務について広報に掲載していただきました。それでも広く認知されているとはいいいがたいと感じます。

(山本委員) おそらく、学校現場はスクールソーシャルワーカーから入ってくると思います。

初めにスクールソーシャルワーカーの方から入って徐々に相談がくると思う。

学校管理職会議などで支援センターの活用方法を伝えていくのが大事だと思います。

(市川教育長) よりよく活用してもらうためには、よりよく知ってもらう必要があります。

(3) 校歌及び校旗校章の進捗状況について

【志村教育課長より校歌及び校旗校章の進捗状況について説明がありました。】

(市川教育長) ありがとうございます。まず校歌につきましては、作業が始まっています、現在の状況を説明させていただきました。

次に校旗校章については、検討委員会を立ち上げさせていただいて、説明のあった内容で決定をいたしました。

ここまでの説明につきまして、何かご質問ありました。伺いたいと思います。

質問無し

(4) その他

特になし。

5 閉会

(山本委員) 雨も降ってまいりました。長時間にわたり、ありがとうございます。ちょっと外を見たら薄暗くなってきことに気づきました。

ちょうど今お墓参りの時期でして、私のいとこの家族が、先週自分たちのお墓に来てその帰りに寄って行ったんですが。8人で来まして、私の娘がタケノコマンのポロシャツを着ていたところ、子供が、宮西先生絵であることに気づきました。そこから絵本の話になって、小さい頃、こんな絵本を読んだなんて話がありました。子どもは、見たものから発想がどんどん変わってくるし、そこから、新しい何かに触れたのかなとおもいました。タケノコマンのポロシャツは、とてもいいキーワードなんだなというふうに考えました。

私も見ていて、自分も着ようかと思いました。ちょっと見て、これなんだろうと思うコンテンツがあるということを感じました。とても大事な資材が、南部にはあると思います。本日はどうもお疲れ様でした。